

「富士市国土強靱化地域計画（案）」のパブリックコメントに対する意見及び回答

反映結果の項目は、「1 反映する」、「2 既に盛り込み済み」、「3 今後の参考にするもの」、「4 反映できないもの」、「5 その他（案件とは無関係な意見等）」の5区分

No.	意見の内容	市の考え方	反映結果
1	地域防災計画をブレイクダウンした(下位レベル)の詳細計画と判断した。県の計画との対比で県に入っている「推進のための主な個別事業」が無い。市民に(啓発)理解させるものならば県にあるような個別計画が欲しい	富士市国土強靱化地域計画は、本市における国土強靱化に関する施策を総合的かつ計画的に推進するための基本計画とするもので、富士市総合計画との整合・調和及び国や県の国土強靱化地域計画との調和をもって定めるものです。御指摘のとおり、県の国土強靱化地域計画には「推進のための主な個別事業」が記されており理解しやすいため、本市では「別冊富士市国土強靱化地域計画のための取組」の中に主な個別事業を掲載することとします。	反映する
2	施策分野が防災のみになっているが県の分野を踏襲しなくて良いのでしょうか(特に学校教育が無いのが気になります)	本計画は施策分野ごとでの掲載をしておりませんが、学校教育は重要と考えているため、別冊の計画推進のための取組において、防災教育の推進、学校等の防災体制の強化推進などを進めております。今後もより効果のある取組等に努めてまいります。	今後の参考にするもの
3	富士市が計画している「総合(基本)計画」と連携を取りたい(P11には連携をとると書いてある)	本計画は、富士市総合計画と整合・調和を図り策定するものであり、富士市総合計画で目指すまちにするための分野別計画における国土強靱化に関する指針となります。	既に盛り込み済み
4	この計画は関連団体が非常に多い。総合計画と違って住民が知らなければ意味のないものなので、制定後には関連団体への周知を徹底して欲しい。	本計画は、国土強靱化に係る施策を網羅しており、施策ごとに必要に応じて市民への周知を行っております。	今後の参考にするもの
5	P14, P15に『本市までの送電線・市内配電線の断裂、』とあるが断裂は、一般的には靱帯断裂、腱断裂など身体的な事象に使われ、電氣的な事象には、【電線の断線】が一般的に使用されません。	御指摘のとおり、断線といたします。	反映する
6	市役所・中央病院など拠点となる場所には、ドクターヘリ・自衛隊のヘリコプターが離着陸できる必要と考え盛り込むべきです。	富士市地域防災計画において、市内に12か所をヘリポートとして設定しています。中でも八代町の防災ヘリポートは市内唯一ヘリポート専用施設で、平常時からドクターヘリの離発着に利用しております。また、中央病院では中央公園を利用することになっており、着陸位置を示すための機材等を院内に配備しています。	既に盛り込み済み

7	<p>電力会社からの電力供給が不可となった場合、非常用電源に頼るが長期化した場合燃料(軽油)を安定的に確保されるのが必須となる。その手立てを明確にするべき。特に上水道と中央病院(人工透析など大量の水を必要とする。)</p>	<p>本計画には反映しませんが、重要なことと認識しており、各施設にて下記の体制を整えています。 上下水道部では静岡県石油業協同組合富士支部との協定により、燃料を調達することになります。被害想定では、長期にわたり電力供給が止まる可能性は低いと考えていますが、停電が長期化し非常用発電機の燃料が不足した場合は、日本水道協会静岡県支部を通じて、他市水道事業からの給水車の派遣による応急給水により対応します。 中央病院の非常用発電については、院内の必要電力を3日分賄うことができる非常用発電機と燃料タンク(重油)を設置しております。また、県の災害拠点病院に指定されており、地震・風水害等の大規模災害時において国から災害時石油供給連携計画の実施勧告がされ、県が要請した場合、石油元売会社から通常の流通経路によらない臨時的、緊急的な燃料供給が行われることになっています。なお、県を通じて毎年設備等の情報を石油元売会社へ提供し、有事の際の円滑な燃料供給に備えて情報共有を行っております。</p>	<p>反映できないもの</p>
8	<p>非常用発電機は、無負荷運転では不具合事象が判明しないことがあり年1回程度、70%位の負荷運転をする様に計画の中に盛り込む様にお願いします。</p>	<p>本庁舎用の非常用発電機は年2回の夜間負荷運転点検を行っております。中央病院の非常用発電機の点検については、毎月の無負荷運転による点検と年1回の70%以上の負荷運転による点検を行っております。 本計画には反映しませんが、各施設の管理上盛り込んでまいります。</p>	<p>反映できないもの</p>
9	<p>近年の台風・大雨などにより、非常用発電機の設置場所が低い場所で水没してしまった事例があります。既設の非常用発電機の設置場所についての見直し検証を盛り込む様にお願いします。</p>	<p>本庁舎用の非常用発電機は消防防災庁舎の上層階に設置しております。また、中央病院の現在の施設における非常用発電機の設置場所見直しについては、スペース等の問題から困難と考えますが、新たな病院の建直し時には水害等の災害についても考慮したうえで設置場所の検討を行っていきます。</p>	<p>今後の参考にするもの</p>